

第2回 都心三宮再整備推進会議

会議録

平成29年11月27日

第2回 都心三宮再整備推進会議

1. 日時 平成29年11月27日(月) 15:00~16:55

2. 場所 神戸市役所1号館14階 大会議室

3. 出席者 委員32名、オブザーバー4名(敬称略)

・地元組織代表

浅木隆子	小田俱義
久野茂樹	清水俊博
谷澤 広	永田耕一
原田比呂志	古川 勝
松岡辰弥	三浦繁男(代理:木村)
森本真弥	松下秀司

・市民代表

岩佐光一朗	玉田はる代(代理:森田)
-------	--------------

・交通事業者代表

奥野雅弘	中村 聡
野々下恵介	早川泰正(代理:金田)
原田 大	吉川紀興

・経済界

植村武雄	松田茂樹
南 嘉邦	

・学識経験者

加藤恵正	小浦久子
末包伸吾	

・行政機関

太田裕之	山田雅義(代理:中川)
高宮 進(代理:村田)	安江 亮
井上大八	出野上 聡(代理:柏樹)

・オブザーバー

阪本浩之	小出一真(代理:大内)
内田慶人(代理:熊本)	福本明彦(代理:山本)

4. 次 第

1. 開会

2. 議事

(1) 「えき～まち空間」基本計画（案）について【意見交換】

(2) 新バスターミナル整備に向けた基本計画（案）について【意見交換】

(3) その他

- ・ 行政施設について【報告】

- ・ 三宮駅周辺地域都市再生安全確保計画について【報告】

3. 閉会

1. 開 会

○都心三宮再整備担当部長

皆様、こんにちは。本日は、大変お忙しい中、御参集いただきありがとうございます。開会に先立ちまして、委員の皆様の一つ確認させていただきます。

本日は、報道機関より会議風景を撮影したい旨の申し入れがありましたので、議事に入るまでということで、許可したいと思います。よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

御異議がないようですので、撮影を許可することといたします。報道機関の方は、議事に入るまで、撮影をしていただいて結構です。

それではただいまより、第2回都心三宮再整備推進会議を開催させていただきます。

私は、住宅都市局計画部都心三宮再整備担当部長の手塚と申します。事務局として、進行を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは開会に当たりまして、神戸市副市長の鳥居より御挨拶申し上げます。

○鳥居副市長

こんにちは。副市長の鳥居でございます。本日はお忙しい中、また年末に近づく中、都心三宮再整備推進会議にお集まりをいただきまして、本当にありがとうございます。

平成27年9月に神戸の都心の未来の姿[将来ビジョン]それから三宮周辺地区の『再整備基本構想』を策定して、皆さんに公表させていただいてからいろいろな取り組みを進めてまいったわけですが、やはりこれが神戸の顔という部分が「えきまち空間」、我々が名づけた部分でございます。ここがどうなっていくかというのが、本当に都心の中で重要なものではないかなと考えているところでございます。

今回お示しする「えきまち空間」の基本計画(案)、これがやはりこれから進めていく都心の中で非常に重要な位置づけになってくるものだというふうに思っております。構想を出してから2年間、まだなかなか成果というところには結びついておりませんが、この「えきまち空間」基本計画を策定して進める中で、ぜひ成果、実りのあるものにしてまいりたいというふうに思っているところでございます。

久元市政も2期目に入りまして、これまでいろいろな種をまいてきたわけですが、それをいよいよ現実のものとしていく、そういう時期に来ているというふうに感じているところでございまして、これまで皆さん方にいろいろ御支援をいただいておりますけれども、さらに今後御支援・御協力をいただきながら進めていきたいなというふうに思っているところでございます。

「えきまち空間」基本計画(案)の中ではいろんな考え方を示させていただいておりますけれども、やはり神戸を代表する空間となっていくように、やはり公共空間、これがある

程度確保していくことは必要でございますし、またその中の設えとかデザインにつきまして、ある程度神戸らしさというものを考えるのにはどういうふうなことをしていけばいいのかということ、今回いろいろ議論を進めてまいった中身がここに入っております。こういうことを踏まえまして、規制とかガイドラインとか、そういうことに実際に結びつけていきたいというふうに考えているところでございます。

また、バスターミナルのほうの基本計画（案）を、今日、御提示することになってございますが、やはり交通結節点である三宮の今の非常に不便な状態、乗り換えとかが不便な状態を解消していくためには大変必要な重要な施設というふうになってございます。また、そこへさらに加えてにぎわいを創出するというところでいろいろな計画を今盛り込んでおるところでございます。この辺につきましても皆さん方の忌憚のない御意見をいただきながら、成果のあるすばらしい神戸の都心が出来るように我々も努力してまいりたいと思いますので、引き続きの皆様方の御支援・御協力をお願い申し上げまして、御挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

○都心三宮再整備担当部長

鳥居副市長、ありがとうございました。

それではこれより、会議を進めるに当たりまして、まずは、お手元の資料の確認をさせていただきます。

次第と会議資料につきましては、事前に送付させていただいております。本日、資料をお忘れの方がいらっしゃいましたら、係の者にお知らせください。

本日の配付資料は、委員等出欠表をお配りしてございます。また、本日時間の関係で御発言いただけなかった御意見等につきましては、用紙を配付してございますので、資料に不足があれば係の者にお知らせください。

続きまして、前回から委員の変更がありました方について御報告させていただきます。資料1 委員名簿をご覧ください。地元組織代表 三ノ宮南まちづくり協議会は向井委員より森本委員に代わられてございます。なお、本日の出席者につきましては、お配りしております「委員等出欠表」にて御確認ください。

それでは、報道機関の撮影はここで終了とさせていただきます。

大変申しわけございませんが、ここで鳥居副市長は公務のため退席させていただきます。

（鳥居副市長・報道退席）

○都心三宮再整備担当部長

それでは、今回の議事につきまして、簡単に説明させていただきます。

まず、「「えきまち空間」基本計画（案）について」というのが1つ目。それから、「新バスターミナル整備に向けた基本計画（案）について」というのが2つ目。それから、その他の事項で、三宮駅周辺の「行政施設について」ということと、平成29年3月に作成いたしました「三宮駅周辺地域都市再生安全確保計画について」ということを御説明させ

ていただきます。

ここからは、会長に進行をお願いしたいと思います。会長、よろしくをお願いいたします。

2. 議 事

(1) 「えき≈まち空間」基本計画（案）について【意見交換】

○会長

皆さん、こんにちは。

もう、第2回目ということになりましたけれども、前回同様、皆さん忌憚のない御意見を伺えればと思っております。どうぞ、よろしくお願いいたします。

今、事務局からお話がありましたように、今日は議事が3件。「えき≈まち空間」基本計画（案）、新バスターミナル整備に向けた基本計画（案）、その他ということで行政施設、安全確保計画ということで御準備いただいております。

そうしましたら、まず最初に、第1番目「えき≈まち空間」基本計画（案）についてということで、事務局のほうから御説明をお願いします。

○都心交通担当課長

神戸市住宅都市局都心三宮再整備課都心交通担当課長をしております北田と申します。私のほうから、お手元の資料2「えき≈まち空間」基本計画（案）について御説明をさせていただきます。

まず、この基本計画ですが、7月末にお示しをさせていただきました素案について、地域の方や事業者の方などから御意見をいただき、その後、今回基本計画（案）として取りまとめたものでございます。

まず、1枚めくっていただきまして、A3折り込みで三宮の「えき≈まち空間」を俯瞰した図面を載せております。この図面では、「えき≈まち空間」をどんな空間にしていきたいのかイメージがわかるものとして示してございまして、上に3点、目標とする空間像を記載してございます。

まず1つ目が、三宮の6つの駅があたかも一つの大きな「えき」となるような空間。これは、三宮交差点を中心とした人と公共交通優先の空間「三宮クロススクエア」が6つの駅とバスの乗り場などを地上レベルでつなぎ、また周辺の民間開発に合わせてエレベーターやエスカレーターなどが地下から2階までつなぐ、誰もが移動しやすい空間をつくってほしいというものでございます。

2つ目が「えき」と「まち」が行き来しやすく、より便利で回遊性を高める空間。こちらにつきましては、「えき≈まち空間」から周辺の通りを介して、魅力的なまちに歩きたくなる、歩いて楽しい空間をつなげていくというものでございます。

また3つ目が、美しき港町・神戸の玄関口にふさわしい象徴となる空間ということで、

居心地のよさが感じられ、そこに人が集まることでにぎわいをもたらし、さらには新たにさまざまな活動が生まれていく。そういった空間づくりを官民の連携により目指していきたいというものでございます。

1枚めくっていただきまして、基本計画の目次を載せてございます。

基本計画につきましては、まず計画策定の背景と目的。それと「えき～まち空間」の構成と特性。また、「えき～まち空間」の整備の考え方の中に、空間・交通・景観の考え方を示しております。さらに、「えき～まち空間」を活かす協働の仕組み。また、今後の進め方といった構成としてございます。

1枚めくっていただきまして、1ページ、2ページをご覧ください。基本計画の策定の背景と目的でございます。

1ページには、平成27年9月に都心の[将来ビジョン]と三宮周辺地区の『再整備基本構想』を取りまとめ、その中で神戸の新しい象徴となる「えき～まち空間」を位置づけたことを示してございます。

また、2ページには官民共通の具体的な目標像と、その実現に必要な取り組みを示す「えき～まち空間」の基本計画を策定していくということを示してございます。

3ページをご覧ください。「えき～まち空間」の構成と特性についてまとめてございます。

まず、1)としまして、2つの都市軸として東西の中央幹線につきましては、商業・業務機能が集積する三宮から元町方面をつなぎ、またJR、阪急、バスターミナルなどの交通結節機能強化を図る「にぎわいと活力の軸」。また、南北のフラワーロードにつきましては、山から海をつなぐ神戸らしい街と自然が身近に感じられ、また広域交通拠点としての新神戸駅・神戸港などを結ぶ「花と緑と公共交通の軸」と位置づけてございます。まさに、その中心に位置するのが今回の「えき～まち空間」であり、「三宮クロススクエア」ということになってございます。また、「三宮クロススクエア」周辺には個性あふれる魅力的な5つの「まち」があり、その特性を踏まえて将来の「まち」のあり方を検討してまいります。

4ページでございますが、「えき～まち空間」の空間構成の要素と求める視点についてまとめてございます。「三宮クロススクエア」につきましては、人と公共交通優先の人々の活動の拠点となる象徴的な空間づくり。また、公共空間と沿道建築物が一体となったにぎわいづくりを行っていくところでございます。また、三宮交差点につきましては、2つの都市軸の交点であり、「三宮クロススクエア」と「まち」との重要な結節点であることから、エントランス空間の確保と象徴空間としての顔づくりを行ってまいります。

また、「えき」と「まち」との結節点につきましては、「えき～まち空間」と周りの「まち」とがつながる場所において、魅力的な空間づくりを進めていく場所。また、「えき～まち空間」と一体となって回遊性を担う「通り」につきましては、周辺の魅力的な「まち」とのつながりや、回遊性を意識した空間づくりを行ってまいります。

5ページをご覧ください。「えき～まち空間」の整備の考え方のうち、空間の考え方につ

いてまとめてございます。基本的な考え方でございますが、「えき～まち空間」では行政が中心となって整備する道路や広場などの公共施設と、周辺の民間施設の公共的な空間を合わせて公共空間とし、官民の連携により一体的な空間を整備してまいります。この「えき～まち空間」は、神戸の玄関口にふさわしいにぎわいのある空間であるとともに、わかりやすくユニバーサルデザインに配慮した空間。また、防災や環境にも配慮した空間として整備を行ってまいります。その下に「えき～まち空間」における公共空間の整備イメージを示してございます。

また、6ページでございますが、公共空間を構成する主要な公共施設として「三宮クロススクエア」。また、わかりやすく利用しやすい駅前広場やデッキなどの歩行者空間。さらには、分散する中・長距離バス乗降場を集約する新たなバスターミナルについて、行政が主体的に取り組んでまいります。

7ページ、8ページをご覧ください。ここでは、「三宮クロススクエア」のゾーニングとイメージを示してございます。公共空間と沿道建築物が一体となった、にぎわい空間の創出を図るため、都市軸や、周辺の「まち」の特性を踏まえ、「三宮クロススクエア」を特色の異なる5つにゾーニングしてございます。

まず、「三宮クロススクエア」東側につきましては、JR、ポートライナー、阪神などの鉄道駅やバスターミナルなどが近接し、乗りかえの空間をわかりやすくしていくとともに、にぎわいや大規模イベントに対応できる「にぎわいゾーン」としていきます。また、西側につきましては、北に高架下商店街、南に三宮センター街などがあり、元町方面につながる空間として人が集い憩うための「うるおいと集いゾーン」。北側は、JRと阪急の北側の広場が一体となった歩行者空間を確保し、六甲山を望む視点場や北野方面へのアプローチ空間として「山を感じる自然ゾーン」。中央は、神戸の玄関口「三宮」を印象づける場として、神戸の顔にふさわしい空間を形成する「象徴ゾーン」。最後に南側につきましては、東遊園地を経てウォーターフロントへ誘う空間を確保し、花と緑の連続や海へのつながりを意識した「海へつながる環境ゾーン」と位置づけてございます。

9ページをご覧ください。ここからは交通の考え方について、まとめてございます。

まず、基本的な考え方でございますが、2段落目に記載していますように、高齢者や子育て世代の方々など、誰にとってもより便利で回遊性の高い空間をつくり上げていくことが最も重要であると考えてございます。「えき～まち空間」の交通につきましては、歩行者交通、公共交通と自動車交通、さらには「えき～まち空間」を含む都心部を歩行者が中心のまちにしていくために必要な、都心における交通体系について整理してございます。

まず、歩行者交通でございますが、「えき」から「えき」への乗りかえをわかりやすくし、誰もが移動しやすい動線を確保すること。また、歩行者空間を充実し、「えき」から「まち」への回遊性を向上させること。これらを進めてまいります。

特に、乗換動線につきましては、空間としてのわかりやすさ、移動のしやすさを確保す

るため、経路の見通しを出来る限り確保する。また、周辺民間施設の開発に合わせて、わかりやすい位置にエレベーターやエスカレーターを設置する。さらには、通路は十分な幅員と高さを確保する。そのほか、誰もがわかりやすい案内サインを設置してまいります。具体的な動線としましては、ポートライナーから各駅、また阪急と地下鉄、また新たなバスターミナルへの動線を重点的に考えてまいります。

10ページをご覧ください。乗換動線のイメージを地下・地上・2階の3層で示してございます。特に、三宮交差点など駅に近いところにつきましては、わかりやすい場所にエレベーターやエスカレーター及び滞留空間を設けたボイドを配置し、これにより3層のつながりを強化してまいります。下には、改善イメージを断面的に示したものを載せてございます。左側のイメージのように、もともとエレベーターが2階から地下まで直通でない。あるいは、改札からの見通しが悪い。また、エスカレーターなどが折り返しで移動しにくい。こういった課題を右のイメージのように改善していきたいというふうに思っております。

11ページをご覧ください。「えき」から「まち」への回遊性の向上について示してございます。下の回遊性のイメージ図のように、緑の矢印で示す周辺の「まち」や「えき~まち空間」内の回遊動線につきましては、より歩きやすい空間に強化してまいります。また、青の破線の矢印のように周辺民間施設と一体となった「えき」から「まち」への見通しのよい歩行者空間を確保してまいります。また、茶色の矢印のように鉄道によって分断間のある南北の「まち」のつながりを強化してまいります。

12ページには、歩行者空間ネットワークとして、これまで神戸市において推進してまいりました「3層ネットワーク構想」について触れてございます。今後は地上の歩行者空間を主軸としつつ、駅周辺はデッキと地下が地上の動線を補完する考え方を示してまいります。

続きまして、13ページをご覧ください。公共交通・自動車交通についての考え方を示してございます。駅前広場を再編、拡充、新設し、「えき~まち空間」や交通結節点である駅まで近寄りやすい環境を整備してまいります。また、「えき~まち空間」内に移動支援の拠点を設け、誰もが移動しやすい環境を整備してまいります。具体的には、右のイメージ図とあわせてご覧いただければと思います。

まず、公共交通につきましては、駅前広場を拡充、新設などにより、路上に分散するバスやタクシーの乗降場を方面別に集約し、利便性とわかりやすさを向上させてまいります。また、「三宮クロススクエア」の南北方向に公共交通軸を設け、回遊交通の主軸とし、都心内外の公共交通の利便性を向上させてまいります。また、中・長距離バスにつきましては、新たなバスターミナルに集約し、利便性とわかりやすさを向上させてまいります。

また、公共交通を補完する移動支援の考え方でございますが、「えき~まち空間」内の歩行者ネットワーク上や、公共交通と乗り継ぎのしやすい位置に移動支援の拠点として、情

報発信ですとか、休憩施設、あるいは他の交通への結節機能を兼ね備えた「モビリティ・スポット」を配置してまいります。そこから、「えき≈まち空間」内や周辺の「まち」への移動支援として、電動車いすやベビーカーなどの貸し出し、さらには将来的なパーソナルモビリティなどの利用にも対応できる環境を整備し、誰もが移動しやすい空間を目指してまいります。

続きまして、15ページをご覧ください。自動車交通の利便性の確保について示してございます。まず、左側でございますが、寄り付き交通車両・緊急車両の考え方でございます。駅などへの寄り付きを必要とする方や、まちなかに用事のある方にとって、寄り付きしやすい動線の確保や、使いやすい駅前広場の整備、駐車場、駐輪場を確保してまいります。また、緊急車両の通行や災害時の活動に必要となる空間を確保します。

また右側、業務用車両の考え方でございますが、特に荷捌きにつきましては、共同荷捌き場の確保や時間帯を限った公共空間の活用など、ルール化によるソフト対策も含め、地域の商店街の方々とも話をしながら、柔軟な運用方法を検討してまいります。

続きまして、17ページをご覧ください。都心における交通体系について考え方を示してございます。歩行者が中心のまちを実現する上で必要となる都心における交通体系のイメージを示してございまして、「自動車交通のマネジメント」、「歩行環境の向上」、「公共交通など多様な交通手段の確保」。この3つの視点を踏まえ、総合的に取り組んでまいります。

続きまして、19ページをご覧ください。自動車交通のマネジメントでございますが、「えき≈まち空間」を実現した場合に、周辺や外周の幹線道路において交通量が増加する。あるいは、主要な交差点において渋滞が発生することなど、課題として想定されます。それらに対する具体的な施策として、3点ほど御記載してございます。

1つ目が通過交通の円滑な処理。2つ目が、寄り付き交通の利便性の確保。また、3つ目が公共交通の利便性向上による自動車からの転換。こういったことを交通状況を見据えながら必要な対策を実施し、段階的に整備を進めてまいります。現在、この対策・施策につきましては、交通管理者あるいは道路管理者などと協議をしているところでございます。

21ページ、22ページをご覧ください。ここでは、歩行環境の向上、また公共交通など多様な交通手段の確保について既に取り組んでいる事業、また現在社会実験などを実施している事業を紹介してございます。

続きまして、23ページをご覧ください。ここからは、景観の考え方についてまとめてございます。まず、基本的な考え方でございますが、2段落目に記載していますように、建築物と公共空間の一体的な景観のあり方を示し、まちのにぎわいや活気を誘発する景観形成に取り組んでいくことで、神戸の歴史や自然環境を背景とした文化の薫りが漂う、また訪れた人々の感性に響き、市民が誇りに思える景観を創出していきます。以下、1)都市と自然が調和する景観。2)神戸らしさを感じる「まちなみ形成」。3)として暖かみのある「夜間景観」。これらについては、これまで神戸の景観づくりにおいて大事にしてきた考

え方でございます、今後もこれらを踏まえて景観形成を図ってまいります。

24ページをご覧ください。「えき～まち空間」では、今後「公共空間」「建築物」「夜間景観」「屋外広告物」といった4つの視点のもと、基準やガイドラインなどの前提となるコンセプトとして景観形成方針。また、法令に基づく基準として景観形成基準。また、基準になじまない誘導事項などとしてガイドライン。この3点について、景観デザインコードとして設定してまいります。ページの下には、「三宮クロススクエア」における景観形成のイメージを示してございます。

続きまして、25ページをご覧ください。ここでは、1)としまして、公共空間の景観形成方針について触れてございます。骨格となる「三宮クロススクエア」について、都市軸としての特性や沿道の「まち」の多彩な特性や将来のあり方を踏まえた空間デザインを行ってまいります。

また、2)としまして、建築物の景観形成方針について触れてございます。「えき～まち空間」に立地する建築物は、公共空間と沿道建築物が一体的な都市空間を構成することで相互ににぎわいを呼び込むことができるよう、また玄関口にふさわしい、ゆとりある神戸らしさを感じられるまちなみを形成するよう誘導していくことを記載してございます。具体的には、壁面線の統一と軒線の設定による一体感のあるまちなみづくり。また、低層部のにぎわいづくりといった事項につきまして、右のページのイメージに示していますように、軒線の高さの設定ですとか、セットバック幅、あるいはピロティの奥行きなど、具体的な数値基準を設定してまいります。

27ページをご覧ください。そのほか建築物の景観形成方針としまして、建築物における高層部、中層部、低層部のデザイン。また、神戸の玄関口「三宮」を印象づける三宮交差点の顔づくりの考え方を示してございます。

また、28ページにつきましては、夜間景観の形成方針、屋外広告物のコントロール方針を示してございます。また、(3)としまして、地域との協働と参画による景観づくりとして、3段落目に記載していますように「えき～まち空間」にかかるさまざまな空間構成につきましては、計画段階から完成後の将来形まで、調整の仕組みづくりも含めて、地域の方々との協働と参画により「えき～まち空間」の形成に取り組んでまいります。

続きまして、29ページをご覧ください。「えき～まち空間」を活かす協働の仕組みとしまして、「えき～まち空間」の公共空間の利活用・管理運営の考え方を示してございます。

「えき～まち空間」を神戸の玄関口にふさわしいにぎわいのある空間としていくためには、その公共空間をどのように利活用・管理運営をしていくかが非常に重要でございます。そのため、市民、民間事業者、行政などが連携して、良好な環境や価値を維持・向上させるために多様な関係者の協働によって、公共空間の利活用・管理運営を行い、そこでさまざまなサービスが提供される「エリアマネジメント」に取り組んでまいります。

「えき～まち空間」におけるエリアマネジメントのコンセプトとしまして、場所が完成す

る前から始める活動づくり、また小さなゴールを積み重ねた成功体験型のプロセスづくり、またハードの進捗にあわせた成長型の組織づくりを基本に検討してまいります。

また、30ページにつきましては、民間事業との協働の仕組みということで、エリアマネジメントによる民間事業の促進・誘導のイメージ。また、民間開発事業を促進・誘導する方策の具体例を示してございます。これらは、民間事業者などのニーズも確認しながら検討を進めていきたいと考えてございます。

最後になりますが、31ページ、32ページに今後の進め方について記載してございます。「えきまち空間」につきましては、すぐに実現するものではなく、公共事業、民間開発事業ともに段階的に整備が進んでまいります。中でも、「三宮クロススクエア」につきましては、社会実験や周辺の交通対策を行いながら、徐々に車線を狭め歩道を拡幅していくなど、段階的に整備を進めていく必要がございます。また、「えきまち空間」の実現に向けて、公共事業や民間開発事業について協議・調整する場を設けるなど、官民が連携して推進していく仕組みを検討してまいります。

まずは、当面第1段階としまして、JR南の駅前広場の再編、あるいは新たなバスターミナルのI期整備などに合わせて、また周辺の交通対策も実施しながら、クロススクエアの東西方向の整備に取り組んでまいりたいと考えてございます。

今後、この基本計画（案）につきましては、本日の会議を初めとしまして、さまざまな場でまた御意見を伺いながら、さらに市民意見も伺いながら修正・更新し、年度内に基本計画として取りまとめていきたいと思っております。

説明は以上になります。

○会長

ありがとうございました。

そうしましたら、今御説明いただきました「えきまち空間」基本計画（案）につきまして、何か御質問、コメントでももちろん結構でございますので、御発言いただければと思います。いかがでしょうか。

そうしましたら、恐縮ですけれども、学識経験者の皆さんから。もちろん御発言はいただきたいと思っておりますけれども、最初に一言ずつぐらい感想を。御質問でも結構ですけれど。

○委員

今までの議論を要領よくまとめていただいているのは結構かと存じます。今までの議論で、より具体化したのが、私の専門からしますと景観のデザインの部分なんですね。今回、特に24ページのイメージ図をもとに26ページの軒高の設定であるとか、1、2階のにぎわいを創出するだとか、というようなことが決まっているわけですが、これ結局クロススクエアをイメージしたところでやるというのは、十分理解してるんですけども、例えば4ページにあるように、それを東西南北でどうやって広げていくのか。これをですね。

広げ方ですね。

多分同じものではないかと思うんですけど、このクロススクエアだけで考えるのか、それをさらにどう広げていくのかということが必要になると思いますし、まちの交差点の表情というのは、たまたま4つの建物が向かい合っているだけというだけではなくて、一つはこの三宮のクロススクエアの中心の交差点もありますけども、クロススクエアの周りにある交差点というのも重要なポイントになってくるだろうというふうに思います。そういう点では、デザインコントロールのこの連続性と、個別のゾーンに応じた独自性みたいなものを少し検討しておかないと、クロススクエアはいいとしても、それ以外のところがどうなるのかということが一つあります。

それから、あとは特に11ページにお示しになってはいますが、かねてから言ってますのが、クロススクエアをいかに明確に空間構成をつくって誘導するかと。これは特に、民間の方々にもいろいろお願いしないといけないわけですが、クロススクエアをいかに明確に。以前に差異のないような形でというようなことをおっしゃっていたかと思いますが、明確な空間構成がいきますし、それと同じことで10ページの改善案というところで、かなり具体的に書き込んであるんですけども、かなり踏み込んだことなので、早く決めないと都市計画的なことを少し考えておかないと、到底2つの交通機関とその間の地権者とかいろんなことが絡むと、全部突っ込んでいかないといけないことになる地区施設みたいな扱いになりますから、そのあたりの扱いを慎重にということをお願いします。

それから、デザインコントロール、あるいは今回できる官民共有のパブリックスペースをどうやってつくっていくのか。高層部、中層部、低層部のデザインということで27ページにお書きいただいています。それを具体的に協議していくシステムが非常に大事なかなと思っています。デザインコードはあくまでもコードなので、それを具体化していくには、ここで27ページにうたわれていることを具体的に協議していくことが必要だろうなというふうに思っております。

それから、後で議論になるんでしょうけど、このクロススクエアからちょっと外れてはいるんですけども、バスターミナルも私はこのクロススクエアの一部だと思っていますし、バスターミナルも建物としてはクロススクエアのゲートになるべき建物かなというふうに思っています。ちょっとこれは先走ってあれですけども。とりあえず、気がついたのは以上です。

○会長

ありがとうございました。

○委員

多分、基本構想のときにはクロススクエアを本気でやるのかと思われた方も多かったかと思うんですけども、この基本計画ということで、やるという意味を出されたということはとても重要なことだというふうに私は理解をしています。なかなか大変なことかもし

れませんが、みんなで頑張ってみよう。つまり、神戸の三宮の顔をつくり直す。あるいは、新たな世界に向けての発信をしていく。これは、やはり他にない空間ですので、そういう意味ではやる意義があるというふうに考えています。とても大変だと思いますが、やったことがないことは出来ないというふうに考えてしまうと、何も新しいことは出来ないわけですし、やはり三宮の駅前というのは非常に空間的に制約が多いというか、そんなに広い場所ではないんですね。狭い場所をみんなで使い合いながら、調整しながら、お互いに折り合いながら、お互いに使い合いながら、そういった取り組みが必要だというふうに考えています。

そういう意味で、今、御指摘がありました、多くの公共施設をやろうとしているわけですね、市としては。そういったものが単独ですというような20世紀型の公共施設ではなく、周辺の民間施設であったりとか、周辺のまちの人たちと一緒に考えていく、よくしていく、そういったつくり方もやはり新しい試みが必要だというふうに思っています。

スケジュールに年次を入れてくださいと、何回言っても入れてくれませんが、とにかく入れなさいって言ったんですがやはり入っていませんね。恐らく、最後に聞いたときは、第1段階だったら10年後ぐらいかなというようなことをおっしゃっていましたが、やはり目標を持ってやるということは、とても大事だというふうに思います。つまり、目標を持っていくことによって、決めていくタイミングだったり、そこで折り合っていく問題であったりが明確になってくると思いますので、それはとても大事だと思っています。

それと、そのための場ですね。これから基本計画を受けて、事業を進めていく。もう既にやっていかなきゃならないことがたくさんあると思いますが、そういうものの協議の場というものが今後とても大事になってくると思いますので、そういった進め方も含めてこの基本計画を議論していきたいというふうに思います。

○会長

ありがとうございます。

地元の皆さん、いかがですか。何か、今、二人学識の方からコメントがありましたけれども、何か皆さんほか御意見ありましたら、いかがでしょうか。

○委員

時間をかけて丁寧に作業してこられたこともあり、すごく良いものに仕上がったと思います。ただ、毎回同じことを言っていますが、やはりスピード感が大切な世界です。

遡ると、私ども経済界3者で三宮の整備、再開発のプランをつくって、それを神戸市にも提言させていただいた。それを受けとめていただき、神戸市さんも御苦労されて、いろんな学識経験者の御意見も取り入れながらここまで出来てきました。

これまでは私どもが挙げた意見を採用してくださいとやってきたわけですが、ここまでまともれば私どものポジションは、今度はアクセルを踏む役目になりますので、引き続き、アクセラレーターに立場を変えて、応援していきたいと思っています。

今日の報告で、スピード感という話をしましたが、その関係で申し上げますと、バスターミナルについてはかなり具体的にスケジュールが出ていますので、バスターミナルビルの整備のテンポとクロススクエアの整備、あるいは「えき~まち空間」全体の整備を、スケジュール的な調整をきちんとされた上で進めて欲しいと思います。

バスターミナルビルのⅠ期が出来たときには、クロススクエアもこういう状態になっているんですよという世界を描かれたほうがアピールできるし、またゴール、ターゲットの時期を決められる点でも好ましいのではないかと思います。

それから、計画の中身はこれでいいと思いますが、たまたま昨日、アイセンターオープンの記念シンポジウムがございまして、高橋政代先生のお話を聞いて非常に感激しました。

せっかくアイセンターが出来るならば、神戸はまちを挙げて、すなわち玄関である三宮から、いろんなハンディキャップのある方に対する寄り添い、思いやりをもって、きめ細かなハード・ソフト整備を検討されてはいかがかと思えます。

例えば、目の不自由な方に対して、まちとしての歓迎の形やホスピタリティのあり方として、それこそ高橋政代先生の御意見も伺ってみるとか、専門の方がたくさんいらっしゃいますので、ハード・ソフト両方からのきめの細かい障がい者対策を街全体としてやっていくという方向を打ち出してもいいのではないかと思います。以上です。

○会長

ありがとうございました。

○委員

前回もお話しさせてもらったんですが、「えき~まち空間」で前回30年後を目指してということをお聞きしていたんですが、にぎわいとかいう話をすると、なかなかいいことなんだけどイメージできないのかなというふうに思いますし、30年後のビジョンのゴールのテーマとか、そういったものをつくっていただいて、それに向かって市民の方々と一緒にやっていくという形はいいのかなというふうに思っています。

また、この南北の道を、道路を隔てるということになってくると、地権者さんだったりとか、例えばその他の道路幹線だったり、例えばビルオーナー、例えば附置義務の駐車場、多分駅前のビルとかを持っているんでしょうけども、それを例えばどうしていくのかとか、今後建つビルに対しての法整備とかっていう順番がいろいろと複雑になってくると思うんです。ですので、本当にスピード感という部分では、その他の部分の法整備からどのタイミングで、どうするのかという議論を進めていかないといけないのかなというふうに実感しています。以上です。

○会長

ありがとうございました。今、時期をどうするのかという御発言もあったんですけども、お答えになれる範囲で、事務局のほうから、神戸市のほうから、何かコンパクトにいただけたらありがたいんですけど、いかがでしょうか。

○都心三宮再整備担当部長

今後の進め方ということで、32ページにとりあえず第1段階から第3段階というのを示してございます。このベースになります構想の中で、おおむね30年後を見据えた段階的な整備というのを少し3段階に分けて御提示したということでございます。

第1段階は、よく見ていただきますと東西の道路が少し人と公共交通の空間に変わっているというようなことで、これは想定していますのは、大阪湾岸道路、東西の広域交通の捌きである大阪湾岸道路がおおむね完成した時期に東西の交通の流れが変わるであろうと。そういう時期には、こういう状態を社会実験とか、その段階整備を行いながら、交通状況を確認しながらこういう状態をつくり上げていきたいということで書いてるものがございます。それが、さっきおっしゃったおおむね10年後を目指してというようなところのイメージでございます。それから順次進めていって、第3段階で完成というふうに考えている次第でございます。

○会長

ありがとうございました。

もしよろしければ、今日はともかく3つ議題がありますので、先に進みたいんですけど、地元の皆さんよろしゅうございますでしょうか。

そうしましたら、また後ほど御自由に御発言いただく機会があろうかと思えます。

(2) 新バスターミナル整備に向けた基本計画(案)について【意見交換】

○会長

では、2つ目の議事、バスターミナルの整備計画ですね。では、事務局のほうからよろしく願いいたします。

○事業推進担当課長

住宅都市局都心三宮再整備課事業推進担当課長の鷲尾と申します。それでは、私のほうから資料3新たな中・長距離バスターミナルの整備に向けた雲井通5・6丁目再整備基本計画(案)について御説明させていただきます。

それでは、まず表紙裏面の目次をご覧くださいませでしょうか。この計画案は、第1.基本計画の概要から、以下大きく5つの柱で構成されてございます。これより第1から順に主な記載内容を御説明させていただきます。

まず、第1.基本計画の概要でございます。1ページご覧ください。中・長距離バスの乗り場が6つに分散しているなど、三宮駅周辺の課題について記載をしております。2ページのほうには、そういった課題の解消に向けて、「三宮クロススクエア」や新たなバスターミナルの整備を再整備基本構想のほうに位置づけたこと。そして、3ページのほうにはミント神戸にあるバスターミナルとの一体的利用や高速ランプへの交通アクセス性など

から、新たなバスターミナルの計画地として雲井通5・6丁目を想定している。こういったことについて記載をさせていただきます。

また、4ページの4. 基本計画の位置付けにもお示ししておりますとおり、この計画は再整備の事業化に向けた基本的事項について市が策定したというものでございまして、今後はこの計画に沿って、地元地権者の皆様が中心となって事業化を進めていただくものとしております。

また、5ページでは再整備のコンセプトといたしまして5つ掲げてございます。(1)中・長距離バス移動を主体とした新たな玄関口の創出、(2)神戸ならではの魅力と高いポテンシャルを活かした新たな都市機能の集積、(3)地域の特色を活かした賑わい空間の形成、(4)三宮駅周辺におけるモダルコネクットの強化と未来志向の取り組み、(5)官民一体となった事業推進体制の構築。この5つを掲げて事業に取り組むということとさせていただいております。

続きまして、8ページをお開きください。第2. 再整備の進め方でございます。

図表6にお示ししておりますとおり、この事業では雲井通5丁目をⅠ期、6丁目のサンシティ、オレンジ色のところですね。こちらをⅡ期。残り黄色の部分をⅢ期以降と、大きく3つのブロックに分けて段階的に施行していく方向としております。

また、目標スケジュールとしましては、9ページの図表7にお示ししておりますとおり、Ⅰ期については平成29年度に事業手法を確定し、平成30年から31年度で事業計画の策定や都市計画等の手続。平成32年度末には解体工事に着手。平成37年度の暫定使用開始を目指します。Ⅱ期は、平成33年度に事業手法を確定。その後はⅠ期とほぼ同じ流れで事業化を進め、平成41年度を目標にⅠ期、Ⅱ期全体でのバスターミナルの供用開始を目指します。なお、Ⅲ期以降につきましては、将来需要を見ながら具体化を検討するとさせていただきます。

次に10ページをお開きください。第3. バス乗降場集約の考え方です。

まず、平面的な配置につきましては、図表8にございますように、街の中心や駅に近い青色で示す既存のミント神戸1階のバスターミナルを降車エリアとし、回遊性や乗り継ぎ利便性を図るとともに、赤色でお示ししております雲井通5・6丁目の新たなバスターミナルを乗車エリアとし、高質でゆとりある待合空間や物販店、観光情報コーナーなどの配置を検討、利用者の利便性向上を図ります。

また、立体的な配置につきましては、11ページにございますように、既存の三宮バスターミナルとの一体利用を図ることが効率的であることなどを踏まえまして、図表9のようにビル低層部への配置を想定しております。

続いて、12ページをご覧ください。規模につきましては、図表10にございますように、現在三宮駅周辺に分散している31のバスバースを集約することを前提としておりまして、これを行き先方面別・ピーク別に算定いたしますと、13ページの図表11のよう

に乗車で20バース、降車で6バースが必要と考えられます。これに将来需要や待機バース等を考慮いたしまして、乗車・降車合わせて25から30バース程度と見込んでおります。最終的には、都心部を起点とする観光バスへの対応などを考慮して、事業計画策定時には確定させたいと考えてございます。

さらに14ページでは、「三宮クロススクエア」や駅前広場等の公共空間とスムーズにつながるわかりやすい歩行者動線の確保。バス動線と交錯する箇所においては、地下道やデッキなどにより明確な歩車分離を図るとともに、15ページでは、バスターミナルの出入り口の分散化などによりまして周辺道路網の混雑解消ですとか、バスとほかの自動車交通との錯綜回避を図ってまいります。

また、16ページ中ほどですが、バスターミナルは国道2号に面していることから、国道の利活用なども含めまして、国の参画と支援を求めてまいりたいと考えております。

続きまして、17ページをご覧ください。第4. 再整備ビル全体のイメージです。

バスターミナルを含む再整備ビルは、デザイン都市・神戸の玄関口にふさわしいまちなみ景観や、にぎわい文化などのコンテンツを提供する新たな拠点となるよう、「えきまち空間」の景観方針に対応しながら、新たな駅前の高いポテンシャルを活かした都心にふさわしい高質で多様な都市機能の集積を図ってまいりたいと考えております。加えて、緑化などによる快適で居心地のよい施設を目指しますとともに、子育て支援機能などの充実、そういった視点からユニバーサルデザインを取り入れた施設計画を行ってまいります。

具体的な機能につきましては、18ページをご覧ください。まず、バスターミナルについてですが、高質な待合空間や快適な化粧室・パウダールームなど付帯施設を充実させるとともに、物販や飲食等の利便施設や、神戸らしい商業施設の配置、インバウンドにも対応した観光情報等の提供などを検討いたします。

続きまして、19ページをご覧ください。あわせて、文化・芸術を体感・発信する施設として、多様なニーズに対応できる施設を備えた最大収容1,500席以上の大規模なホール。そして、都心の立地や眺望を活かした新たな三宮図書館について、I期の再整備ビル内への設置を進めてまいりたいと考えております。その他、駅地下の利便性を活かした高規格の業務オフィス機能。ほかの機能との相乗効果を生み出す上質な宿泊ホテル機能。都心にふさわしい魅力活力を想像する多様な機能について導入を検討してまいります。

さらに21ページをご覧ください。21ページの一番上になりますが、I期、II期、それぞれの再整備ビルにつきましては、別々に整備をされることになりますが、2階、1階、地下レベルでつながり、一体的な動線を確保できるようにするほか、一番下の丸になりますが、帰宅困難者の安全確保のための対策や、地域の方の安全・安心のための避難所としての機能の導入について検討を行います。

最後に22ページ、第5. 再整備の具体的手法でございます。まず、1. 事業手法でございますが、輻輳した権利関係を権利変換手法により整理できる「市街地再開発事業」を

基本手法といたしまして、地元地権者や関係権利者の方々の実情に配慮しながら、丁寧できめ細やかな対応により進めてまいりたいと考えております。

次に、施行方式でございますが、Ⅰ期についてはよりスピード感を持って事業進捗を図るため、地権者の意見を反映しつつ、迅速な意思決定や民間事業者のノウハウ等の活用が可能な「再開発会社施行」による実施を目指したいと考えております。

また、3. 民間事業者の活用等につきましては、今後事業化を進めていく段階で出来るだけ早期に民間事業者を活用して、スピーディーな事業進捗を図るとともに、対象エリアが「特定都市再生緊急整備地域」に指定されていることを活かしまして、都市再生制度の積極的な活用を図ってまいりたいと考えております。

この計画案につきましては、本日を初め市民の皆様のお意見をお伺いしながら、「えきまち空間」と同じく年度内の策定を目指してまいりたいと考えております。

御説明のほうは、以上です。

○会長

ありがとうございました。

そうしましたら、このバスターミナルの計画につきまして、皆さんから御意見、御質問いただければと思います。そうしましたら、地元の皆さんのほうから御意見いただければと思うんですけども、いかがでしょうか。感想でも、質問でも、何でも結構です。

○委員

このバスターミナルだけの問題じゃないんですけど、全体的にすばらしい計画を出されていると思うんですが、これが出来上がるときっていうのはもう少し時代が未来に進んでおりますから、ガソリン車じゃありませんし、当然電気自動車ですし、バスターミナルのところで回転するなんていう、頭と頭を変えるだけで回転できる車がもう出来つつある時代に、もう少し未来を見た「えきまち未来空間」というふうにつけてでも、先を考えないと出来上がったときには、少し古いんじゃないかというようなことがあるんじゃないかと思います。今、現在こうなればすばらしいと思いますが、これが何年後になりますと、私たちの頭で想像できないようなものになっているんじゃないかと。

特に今、細かい場所になりますけど、新神戸で新幹線を降りまして、やはり外国人の方は神戸ってつくところが、神戸のメインのそこだと思われていますから、三宮の開発のときにも何かもう少しここが神戸の中心だということをPRできるようなものでなければ、何かこのクロススクエアの計画にしても、クロスの部分にはスポットライトが当たりますが、果たして神戸のまちが全体復興していく上において、そのクロスへのこみ部分から端の何か開発が逆に遅れて、土地の値段にしても中心だけが上がって、周りが下がっていくという。神戸の経済を考えると、私的には今これになればすばらしいと思いますが、やはり何年後かということになったらちょっと疑問が浮かぶような気がします。

○会長

ありがとうございます。大変重要な御指摘で、一番変化の早い領域ですので、この辺は事務局のほうで十分お考えいただいております。

○委員

私は、神戸市が今原案として出してきたクロススクエアという考え方について、やると決めたらそれをしっかりやると。これはもう大賛成ですね。

ちょっと理屈から入りますが、論語の世界に「天下の理」ということわざがあります。それは、昔からずっとやってきたことを現代に、未来につないでいくことについて、どういう考え方を持ってやるのか。これが「天下の理」という考え方なんです。それは市民というか、商売でいうたらお客さんというか、そういうものいかに寄り添って業務をやっていくかということだと思っております。クロススクエアという考え方が歩行者にとって、あるいは市民にとって最大限、いわゆるコンセプトに掲げておられるようなことにつながっていくならば、これはもうそれほどの名案はないということになりますから、基本の考え方は論語の経にあるような天下の理みたいな考え方で進めていただければ、大変ありがたいというふうに考えております。

それから、もう一つ、まちの代表として出てきているものですから、交通の体系が東西なり、南北なりで整備をされていきます。そうしますと、神戸のまちの場合は坂道が多いわけで、逃がす交通の場所が加納町の交差点とかそういったところに逃げ道をつくっていかないとということになります。そうしますと、地下を掘って行って、何かこの南北の交通が非常に遮断をされるとか、通りにくいかいようなことだけは、計画の段階でまちの住民で大反対運動が起こるとかいうことのないように、計画的にちゃんとやってもらいたい。そのように考えております。ひとつよろしくお願いをしたいと思います。

○会長

ありがとうございます。

○委員

私がお話しするようなことではないと思って、ちょっと遠慮しております。今はもう非常に難しいですからね。どないしたらいいんかということ、考えてない人はいないんですよ。だけど、それがどないも出来ひんというような答えが返ってくるから、動きがとれないようになっているんですね。文章で書いてどうこういうのは、誰でも言おうと思っただけの言えるわけですが、実際にその商売をやる場合にそれだけの人が動くか、そういうことも全部考えてやらなアカン。非常に難しいですから、私はこれは一概に言えないと思っております。

私も三宮ではよう頑張ってきて、競争もよくしました。だけど、競争というのは必ず客はふえるのは間違いございませんね。ところが、本人同士はあんまり儲かってないという

場合があります。だから商売とかなんとかいうのはものすごい難しいです。口でちょっと出して出来るのやったら誰でもします。だけど、どっかは難しいところがあって、それを克服せんとやらないんですね。

私もこういう場面なんかに出るのがあんまり苦手なほうで出てなかったんですけど、何かいつの間にか何かせないかんのかとと思っているんです。

時代が変わってんなと思って、私は毎日を暮らしておりますが、うちの商店街はよくなるように努力していますよ。私は自分の仕事じゃないけど、やらなんだら町はようならんということで、熱心にやっております。よろしく。

○会長

ありがとうございました。

○委員

この「えき~まち空間」の基本計画案は非常にすばらしいもので、私もちょっと考えも及ばないところがあるんですけど、景観デザインコードの設定というところで、公共交通といえば、例えば一番身近にある市バスなんですけど、今の市バスの色彩、私自身非常に好感を持って、白と緑の色彩ですけど、市バスはそれであるんですけど、停留所の景観というか、停留所のやっぱり色彩というのをもうちょっと市バスと例えば統一させていくとか、このクロススクエアでも新しいバス停が出来るとなると、その周辺のバス停の器具なんかを非常に新しいデザインでわかりやすくなっていると思うんですけど、このクロススクエアに進入してくる市バスの各停留所も景観のデザインコードを設定して、わかりやすいような形にしていったらより良いかなと思っています。ささいなことですけど。

○会長

ありがとうございます。そのあたりも事務局のほうでまた御検討いただければと思います。

○委員

三宮のほうのイメージですけど、全部三宮に集まっているのはいいんですけど、例えば今市バスで2番と92番が元町1丁目と三宮神社まで来てますけど、東西の市バスによる交通の分断感がすごく強くなるのかなと思って。もう一つ、その市バス、三宮から西の2番と92番が廃止されるのかなというのがあったりして、西のほうのところから東灘とか、灘から来るお客さんは非常にアクセス悪くなるかなという、それが心配なところなんです。全部三宮へ来るのはいいんですけど、三宮を越えて移動するお客さんがちょっと動線が切れてしまうのかというのが心配です。

あと、市バスがどうなるかちょっと見えないうち言うのもあるんですけど。それともう一つは、もう少し細やかに車でアクセスできる施設がもうちょっとあってもいいかなと思うんです。やっぱり歩いて回遊するのはいいんですけど、若い元気な人はいいんですけど。例えば、元町でしたらリパークなんかいっぱい出来て、ピンポイントでこの店行きたいと

いうお年寄りが結構いるんですね。これだけお年寄りに杖ついて歩け、まして傘差して歩けていうのは辛いと思うので、近くに駐車場がもうちょっと小まめにあってもいいかなという気はしています。

あと、例えば地元でちょっとした物づくりをして、家で職人さんがつくって、すぐ積んで運ぶとか、そういう商売があるんですけど、その人にこれ見せたんですね。そしたらこんなところおられへんわという意見もありまして。そういう大きなところだけじゃなくて、ちょっと小さな職人的な人が住んで仕事する、あるいは小まめに車で仕事している人たちは結構不便になるかなというところがあります。そんなところを、もうちょっと細やかに車が入れるような仕組みがあってもいいかなと思っています。

○会長

ありがとうございます。また事務局のほうでも今の御懸案を受けていただければと思います。

○委員

ハーバーランドなんですけれども、ハーバーランドは御承知のように都心の西の核、西の拠点ということになってございます。ただ、やっぱりいろいろ話をしておりますと、三宮ばかりで神戸はさらに廃れるんじゃないかというような声もなくはございません。

そういう意味で、やはりここは玄関口でございますので、都心全体に対する発信の機能といえますか、神戸市全体にも必要だとは思いますが、例えば具体例で言いますと、この「えきまち空間」でいきますと、例えばハーバーランドはこっちで都心全体地図があって、ここに行くのにこんなルートを通ったらいいよとか、こんな交通手段で行ったらいいよとか、あるいは自転車もあるよとか、これはもちろんハーバーランドだけではなくて、例えば北野であるとか、あるいは元町はこっちだとか、そういった都心全体をここで何か発信できるようなそういった機能みたいなものは、ここに書いてある「えきまち空間」の中で持っていただければありがたいなと思います。以上です。

○会長

ありがとうございます。

○委員

私の場合は少数意見かもわかりませんが、最近マスメディアのほうが先行して、さもツイインビルが決定したりとか、何か事あるたびに決定されたような書き方、報道がされておりますが、実際に当該の権利者としましては、まだ具体的にそんなような話まで神戸市さんとは詰めた話もできていませんし、一体全体その過程過程の話っていうのが、何か一足飛びに場合によっては飛ばされて公表されたりとかしてるような節がどうも見受けられるんですけれども、そのような進め方っていうのは、とりもなおさず逆に権利者に不信感を抱かせるような結果になるのではないかなと思います。ですから、あくまでも懇親丁寧に透明性をもって、今後はきちんとこのプロジェクトを進めていっていただきたいなと思

ます。

過去、やはり一度、再開発を経験してきた場所でもありますので、そのときは本当に権利者同士でもかなり苦い思いをした記憶がいまだに残っていますし、確かに私はバスの集約センターを考えたらいかがなもんですかということ、そういう話はしてきました。人は勝手なもので、勤労会館あたりがいいんじゃないかと、まさかそれがはね返って6丁目のサンシティビルのほうにまでⅡ期として及んでくるとは夢にも思わなかったんですけど、でもやはりこの場でいろんな意見を聞きますと、やっぱり32バスぐらいが必要な規模になると、そこも犠牲を伴わなければ絵に描いた餅になるということは、一神戸市民としても申しわけないなという複雑な気持ちで今こうして席に座っております。どうか、神戸市さんは最後まで案、案ということ言われて押し進めようとされますが、最後は本当に食べておいしかった、甘かったよという案にしていきたい。それだけです。よろしくお願いします。

○会長

ありがとうございました。

○委員

全体的に景観デザインコードを設定されて、いろんな建物だとか屋外広告物だとかいろいろ構造のガイドラインをつくったというのはいいことなんですが、一方でバスターミナルのスケジュールを見ていますと、平成30年度には事業計画が出来て、平成31年度には都市計画事業手続が始まるというところでいけば、当然バスターミナルもそのクロススクエアからの流れなので、外観みたいなものっていうのは多分連続性があるので、多分一つのもとのコンセプトが出来ないとバスターミナルの外観も多分考えようがないんだろうと思うんですね。

そういう意味でも、冒頭この辺のところは早く決めようという話がありましたけど、このところは私も早くお願いをしたいと思っています。と申しますのは、居留地の中で屋外広告物のガイドラインとかつくって、もう二十何年やっていますけれど、ようやく根づいてきたのがついここ五、六年だと思うんですね。ある意味、この辺の外のガイドラインみたいなのは、出来る前から規制をかけてやって慣らす。言い方悪いんですけど、慣れていただかないと、「クロススクエア出来ます。はい、全部きれいにしましょう」とはなかなかいかないので、この辺のスピード感は出来るだけ早目にとお願いしたいと思います。以上です。

○会長

ありがとうございます。いかがでしょうか。

○委員

今日は会長の代理なので、意見のほうは控えさせていただきたいと思います。

○会長

わかりました。ありがとうございます。

○委員

私からは特にはないんですけども、とにかくスピード感を持っていただけたらいいなと思います。以上です。

○会長

ありがとうございます。

○委員

2つほど、あるわけなんですけど、三宮の駅前で商業施設でみんな手を取り合っている会議ですので、民間として盛り上げるという話になると思うんですが、ただこの案を大分具体的に詰まってきたと、頭の片隅に市民の皆さん方はお金の話がどうしても、これどんぐらいかかるんだろうとか、どんだけ税金が使われるんだろうという話は、当然ながら出てくると思います。

逆張りでいうと、じゃあこれをやることによって経済効果がどれだけ上がって、変な話、神戸市にどれぐらいのお金がいろんなところから落ちてきて、どこの商業が栄え、どの分野が発展するのかということ、経費対効果を考えた案でここまではってというような部分をぼちぼち出すタイミングになってるかなと。市民の皆さんは、きれいになってよかったねじゃなくて、潤いがそこに出てきて、私たちの生活がそれによってプラスになるというようなところに結びつけないと、なかなか実感がわからないんじゃないかなというふうに思います。

それから、2つ目は、実は17日から駅前で光の街道のイルミネーションをスタートする前に、小学生の6校に未来の神戸はどんなんがいいですかというテーマで話を集めました。今日はそこを全部説明するわけにはいかないんですけど、純粋な小学生の意見はやっぱり神戸は大好きですと。だから、今ある海と山は残してほしいというような話とか、ハーバーランドに行くと私は楽しいのであそこの施設は残してくださいとかいうような話で、どちらかという、神戸の今のいいところは残してほしいというのが小学生のピュアな意見が非常に多かったということです。

再開発をやる場合は、全部更地にしてという発想ではなくて、やっぱりいいものは残すというような部分も要素として入れないとだめじゃないかなというふうに、その小学生の意見を聞きながら感じたところです。以上でございます。

○会長

ありがとうございます。

○委員

市民代表として、ささやかな夢をちょっとお願いしたいなと思います。

皆さん非常に知恵を集めて、このような基本計画をつくっていただいて、これでいこう

というふうになってきているようです。皆さんの先ほどからお聞きしております御意見も確かにそのとおりなんです、私自分の意見としまして、JR三ノ宮駅のところに温泉が出たという話を新聞で読んだことがあるんですが、JRさんがどう考えておられるかはまだ全くわかりませんが、温泉は有効活用できないのかなど。政令指定都市の主要駅で温泉が出るなんていうのはめったにないことだろうと思いますし、この再整備に当たってその温泉を活用して、三宮に遊びに来て、帰りに温泉に入って、おいしいものを食べて帰ってきたというのも一つの市民の夢になるのではないかなというふうに思いますので、そんなこともちょっと考えていただければなというふうには思っております。

○会長

ありがとうございます。

○委員

中央区民の立場から希望を述べさせていただきます。

私たちは実際に中央区で生活しているわけですが、この三宮再整備計画の中で、これまで区民生活に不足していた施設等を作って区民生活を改善していく機会にしていくと聞いてきました。

三宮は神戸の玄関口ですので、景観面にも空間的にも素晴らしいものであってほしいと私たちが望んでいますが、まちというものは、そこに暮らす人々が十分にまちの施設を活用できるということが、一番大切な点だと思います。

観光客や買い物客に多く来ていただいても、そこに暮らす区民や市民が十分に活用できないまちでは、まちとしては空洞化してしまっていて、本当の意味での生きたまちにはならないと思います。

三宮駅周辺のクロススクエアから素晴らしいまちの計画が始まるということですが、そこからの広がりが必要です。

先日、中央区役所と勤労会館が市役所3号館跡地に移設されると発表されました。おそらく、全施設の機能を移設することは容積的にも不足して、難しいのではないのでしょうか。

ですので、2号館跡の共同利用や、新バスターミナルビル（現在の区役所跡地）利用も含めた計画をお願いしたいと思います。

これまで市民・区民生活に不足していると感じていた様々な点を是非この計画内で実現していただけると有り難いです。

また、新しいビルが建設されていく中で、附置義務駐輪場が計画されていくと思いますが、現在の附置義務駐輪場はあまり実効性が伴っていないと感じています。新しい計画の中では、現実的な実効性を伴った駐輪施設計画を指導していただけますようお願いいたします。

また、中央区には区民のスポーツ拠点が不足していると感じていますが、ぜひ磯上公園あたりをスポーツ拠点として開発していただきたいと希望いたします。新しいまちが三宮

クロススクエアからの広がりをもって発展していくためにもとても有効かと思えます。

以上です。ありがとうございました。

○会長

ありがとうございました。ほかに、皆さんに伺いたいんですけども、交通事業者の皆さん、何かもし御意見があれば御発言いただければと思いますけれども、いかがでございましょうか。とりあえずよろしゅうございますでしょうか。

行政機関の皆さん、いかがでしょうか。恐らく細かいところはいろいろあるんですけども、何かこの会議でもし御発言がありましたら言っていただければと思いますけど、いかがでしょうか。よろしゅうございますでしょうか。

わかりました。ありがとうございます。

(3). その他

- ・ 行政施設について【報告】
- ・ 三宮駅周辺地域都市再生安全確保計画について【報告】

○会長

そうしましたら、3つ目の議題のほうに進ませていただきたいと思います。一応、議題ではその他ということになっているんですけども、行政施設についてということと、安全確保計画、この2つでございます。

それでは、事務局のほうからよろしくお願いします。

○企画課長

企画調整局企画課の岡田でございます。よろしくお願いいたします。

都心三宮の再整備にあわせまして、神戸市が所管いたします行政施設の移転、再整備が必要になってございます。11月20日、先週の月曜日に市長の定例会見において市長から発表させていただいてございますので、本日は、そちらのほうを御報告させていただければと考えているところでございます。

資料のほうは資料の4とついてございますが、その後ろに図示した地図がございますので、地図を少しご覧いただきながら、私のほうから説明したいと思います。

まず、1点目でございますが、地図の右上で新たな中・長距離バスターミナルと書いてございますが、そちらのほうに方向性として考えてございますのが、文化ホールの大ホールのような機能です。1,500席以上のホールを配置してはどうかと。それから、三宮図書館。現在、少し規模が小さく、蔵書が少ないというようなお話がございますので、そのあたりを拡充させていただいて新しいコンセプトを入れながら、三宮の新しい図書館として整備してはどうかということを考えてございます。こちらのほうは一つの集客力のある文化・芸術施設の機能を集積していくという形で考えてございます。

それから、2点目でございます。左の下側になります。今の市役所の3号館でございますが、こちらのほうに今バスターミナルのところがございます中央区役所、これは大体建物でいいますと同規模ということで考えているのですが、そのうち約1万平米ぐらいを中央区の総合庁舎として考えてございまして、総合窓口を設置して、市民にとって非常にサービスのいい区役所を整備したいと考えてございます。

また、先ほど少し会長のほうからもお話ございましたけれども、勤労会館も現在、区役所と隣り合わせでございますので、ここに勤労会館の機能を一体的に整備したらどうかと、等々を書いてございます。また、中央区には葺合文化センターというものと、それから生田文化会館というものがございます。機能的に似ているところもございますので、機能もここに集約して整備してはどうかということで考えてございます。

それから、現在の市役所の2号館ですが、こちらにも老朽化してございますので、建てかえまして、建てかえに合わせて今の1号館と同規模、大体5万平米ぐらいの規模を考えているわけですが、にぎわいの機能の一つとして文化ホールの中ホール、大体700から900席程度の整備をしてはどうかということで考えてございます。こちらに合わせて、ウォーターフロントへの動線、人の流れをつくっていくということで考えていきたいと考えてございます。

事業の開始予定年度は、それぞれバスターミナルとして説明がございましたが、I期が平成37年度より、3号館で平成33年度、市役所2号館で平成37年度以降ということで考えてございます。

それから、位置図にはございませんが、今現在勤労会館の建物の中には青少年会館がございまして、こちらについては神戸駅もしくは三宮駅の周辺で1,000平米程度のものを確保していきたいということで考えているところでございます。

私のほうからは以上でございます。よろしく申し上げます。

○会長

ありがとうございました。では、引き続き安全確保計画のほうの御説明をお願いします。

○計画担当課長

危機管理室の計画担当課長の清水と申します。

それでは、都市再生安全確保計画について御説明をいたします。お手元の資料の5で、計画の概要版をお配りしてございますけれども、スクリーンのほうに要点をまとめておりますので、そちらを中心に御説明をさせていただきます。

都心の将来ビジョンですとか、再整備基本構想では防災というのが柱ですとか、重要な要素の一つになっております。この計画は、それを実際に実現するためのものがございます。鉄道事業者ですとか、駅周辺の商業者の皆さんなど関係者と協議会をつくりまして、一緒に作成をしたものでございます。

防災面で特に都心の場合、問題になりますのが、帰宅困難者でございます。すみません、

資料にページ番号をつけておりませんが、1ページの2のところに表をつけておりますけれども、三宮の場合は災害で公共交通機関が止まりますと最上段に数字を入れております、平日青字で14.5万人、休日が赤字で9.6万人の帰宅困難者が発生をするというふうに想定をしております。この数字を前提に対策を考えていく必要がございます。

帰宅困難者対策の基本的な方向性としては、主に3つございます。すみません、ちょっとスクリーンのほうをご覧いただきたいんですけども、まず1つ目が屋内滞留者でございます。これは企業の従業員などになりますけれども、こういった皆さんにはむやみに帰宅をせずに、建物が安全な場合はその場にとどまっていたり、会社にとどまっていたり。これは、一斉帰宅抑制というふうに言いますが、駅とか道路への人の集中を抑えるということが、まず1点目でございます。

2点目が行き場のない人ですね。これは、買い物客ですとか観光客になりますけれども、こういった方々に対しては、まず商業施設の場合はまずお客さんを保護をしていただきたいというふうに考えております。あと、外にいて行き場のない方には、雨露をしのぐ場所、これを一時滞在施設といっておりますけれども、こういった施設を確保して、安全を確保していきたいということで考えております。

次に、3番目でございますけれども、状況が一定落ちついて、歩いて帰れるような段階になれば、そういった方々をご支援するということが、この大きな3つの対策を考えております。

都市再生安全確保計画はこういったことに対しまして、三宮駅周辺でハード面、ソフト面を含めて、安全を実現していこうというものでございまして、三宮駅を中心におおむね1キロの範囲で対策を考えるということにしております。

計画の中では大きな目標と基本方針を定めております。資料の2ページの4の計画の目標と基本方針ということで記載をしておりますけれども、目標としては地域の力を結集して、確かな防災力を構築するというにしております。さらに、基本方針としては、平常時から共助、皆さんで助け合う共助の力を高めて防災力を向上するですとか、官民連携で防災力を確保していく。こういったことによって、地域の事業継続性を向上して、魅力あるまちを実現していきたいということで考えております。

この目標と基本方針のもとに、まずハード対策でございますけれども、こちらについては資料の3ページ目の6-1という下のところの表をご覧いただきたいんですけども、ハード施設は、都市再生安全確保施設というふうに申し上げてはおりますけれども、こういった各種施設におられる帰宅困難者が滞留する空間ですとか、あるいは退避する経路、こういったものの整備の考え方をお示しをしております。

具体的には4ページ目、一番資料の裏のほうをご覧いただきたいんですけども、まず一時退避場所です。これは、建物にとどまれない方にまず退避をしていただく屋外の空間

でございます。こちらには現在の大きな公園ですとか、広場を指定しておりますけれども、まだまだ空間が足りないということで、今後再整備に合わせて空間を確保していく必要がございます。

続いて、その下の一時滞在施設です。これは、行き場のない方、観光客とかお買い物の方、こういった方々に夜を明かしていただくために収容をさせていただく屋内の空間でございます。現在、まず既存の施設の中で何とか御協力いただけないかということで、事業者の皆さんに御協力をいただいて、順次、今指定を進めていってるところでございますけれども、現在8施設、ここからさらにこの表から増えてまして、現在8施設、7,500人分が確保されていますけれども、最終的には平日1.8万人、休日4.6万人ということで確保していく必要がございますので、今後も再整備にあわせた空間の整備ですとか、あるいは施設の御協力で数を増やしていきたいということで考えております。

続きまして、ソフト対策でございます。資料の6-3になりますけれども、こちらについては協議会の事業者の皆さんと、どうすれば対策がうまく進むか議論をさせていただいております。その中で、ガイドライン、一時滞在施設を实际運営するためのガイドラインですとか、今議論していますけれども、一斉帰宅を抑制するためのガイドライン。こういったものの今検討をしております。さらには、訓練を毎年開催しておりますして、訓練を通じて、さらに計画に反映をするといったような形で進めているところでございます。

最後に、今後の進め方でございます。こういった形で、まず計画という形でまとめましたけれども、これがスタートでございますして、今後はこの計画の考え方に従って、安全な都心を実現していく必要がございます。

ハード対策としては、今後の三宮の再整備に合わせて、これは行政がやる事業はもちろんですけれども、民間事業者の事業につきましても御協力をお願いして、安全な空間整備を図っていきたいということで考えております。

あと、ソフト対策については、今、駅前の事業者さん中心にお話をしておりますけれども、例えば一斉帰宅抑制ですね。これは駅周辺だけではなくて、都心全体で進める必要がございますので、今後とも皆さんの御協力をいただいて、防災対策を進めていきたいというふうに考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

説明については、以上でございます。

○会長

ありがとうございました。2点あったと思うんですけども、1点目は行政施設。神戸文化ホールの移転とか、図書館の整備、このあたりも新聞で随分報道されていたところがあります。2点目が安全対策といえますか、安全確保計画でありました。

どうぞ、皆さんのほうから御質問なり、御意見をいただければと思います。ホールの利用等々につきましても、市民生活に直結しているところでもありますので、何かございましたら。いかがでしょうか。どうぞ、御遠慮なく。皆さん、どうぞお願いします。

○委員

音楽の大ホールをつくるという、それから中ホールをつくるということなんですが、これってそのホールだけつくって、もちろんホールに付随する楽屋とかそんなのはつくられると思うんですけど、この中に音楽室というのが表現がないので、青少年会館のところだけ音楽室というのが書かれていますけれども、こういう小さな小部屋もつくっておかないと、練習する人たちとか、そんなのが神戸には今貸しスタジオというのが非常に少ないと思うので、こんなふうにせっかくつくるんやったら、スペースをとってほしいなと思います。

それと、図書館の機能ということで、会長のほうからの御発言を代弁しますと、とにかく本を読むだけではあかんと。やはりそこに何らかの機能を持たさなあかんということなので、これもただ本棚をつくって、読むスペースだけをつくるのではなくって、ミーティングが出来るような小部屋とか、そういうようなものも併設されたらどうかなというふうに思います。計画の中にそのことを可能であれば取り入れていただけたらなというふうに思います。ありがとうございました。

○会長

ありがとうございます。いかがですか、皆さん何か。どうぞ、お願いします。

○委員

今の問題ではないんですけど、一番最初の「えきまち空間」で、この形を見せていただきましたら、いろいろとほんとに狭い空間ですので、その中でやっていく中でタクシーは再開発のもとで5つの形に分かれて整備をしていただくという形で、これはやむを得んというふうには理解しております。いろいろと行く方向に応じてとかいう形で、これはクロススクエアとしてはいいんじゃないかと思っています。それで、もう一つ先に言っていただきましたが、ユニバーサルデザインの時代でございます。タクシーもそのようにならないといけない。健常者のみの時代じゃございませんし、これから長い上には余計それが起こってくる時代であり、少子高齢化の時代と思っています。また神戸市民だけではなく、海外、県外の方もおられるし、みんなが共有できるということになれば、やはりタクシーの必要性というものは非常に大事だと思いますので、その中で、障がい者も行けるユニバーサルの乗り場を各場所に設置していただきたい。それがこれからの時代だと思っていますので、それは切に申し述べておきます。

それから、パーク&ライドという形の言葉があるんですけども、これもそういうところで車を分散するという形を考えられていると思いますので、このあたりも同じような形のユニバーサルというのも入れていただきたいと思います。

最後に、いろいろと災害、危機管理のこともいろいろと1、2、3とありましたが、タクシーはそういうときに一番強い商品でございますので、困ったときにこそ役立つというので、その辺の社会的位置もよろしくお願ひしたいというふうなことです。

○会長

ありがとうございます。今、行政機関、図書館含めての意見のお話になっているんですけども、このあたり、やはり市民代表のお二人からちょっとコメントを。

○委員

これは私たちがどうこう言う問題ではないかなと思うんですが、私、中央区ではありませんので、区役所の問題については。都心ですので、そんなに遠くに、離れたところに行くわけではないので、これは中央区の方が納得していただけたらとは思いますが、ほかの2号館、3号館の建てかえの件等につきましては、行政が考えられることを進めていただけたらいいのではないかなとは思ってはおります。以上です。

○会長

ありがとうございます。

○委員

当初は2号館跡に中央区役所が移設するといいいという意見はよく聞いていました。結果的には3号館というお話になったようですが、私自身は、2号館は神戸市民のためのものと思いますので、妥当なところに落ち着いたと感じています。

ただ、2号館には「さんちか」から直接地下道で繋がっていますが、3号館には連絡通路がなく、いったん地上に出なければならないというアクセスの悪さが問題点です。2号館、3号館、そして居留地への動線というか、広がりを考えていただきたいと思います。希望としては、3号館にも「さんちか」から繋がるような工夫をしていただければ有り難いということと、三宮駅からかなりの距離になりますので、「動く歩道」の検討をぜひお願いできればと思っております。

○会長

ありがとうございます。

そうしましたら、ちょっと学識の立場から、何かございますでしょうか。よろしいですか。ぜひとも御発言を。

○委員

いろんなことが動いているということがわかるわけなんですけど、そのいろんなことがバラバラに動いたら多分ぐちゃぐちゃになっていくと思うんですね。よくありがちな状況なので、出来るだけたくさんを同時に動かそうというのであれば、そこをやはりちゃんと調整をして、一つの都心と、あるいは一つの駅、「えき~まち空間」ということを進めていくに当たって、せめて行政が取り組もうとしている分ぐらいは、きちんとした調整のもと、相乗効果が上がるようないい公共空間をつくっていくような取り組みをぜひしていただきたいというふうに思います。

それから、先ほどおっしゃられたように、やはり交通も変わりますよね、恐らく。多分パーソナルモビリティも、もっと格好いいものがいっぱい出てくると思いますので、そう

すると歩行とこういったパーソナルモビリティが共存できるような、そういう空間としても三宮の都心はあり得ると思うんですね。車が全てということからやはり変わってくる可能性って御指摘のとおりだと思います。そういった意味での、今の状況とは違うモビリティの共存のあり方みたいなものも大きな課題なのかなということを感じました。

○会長

ありがとうございました。ほかに、皆さんよろしゅうございますでしょうか。どうぞ、お願いいたします。

○委員

ちょっと一つお聞きしたいんですけれども、確か9月末ぐらいに中央区役所で、中央区役所としての移転先等の話が3つほど候補地として挙げられてきたような記憶があります。ちょっと会議で皆さんの意見を聞いて3つほど候補地が挙げられてきた印象があるんですけれども、少数派意見として私も出来ましたら元の鞘に戻るような、今の地に戻ってきてほしいと、いわゆる今の場所に中央区役所を、再開発が済みましたら戻ってきてほしいという意見を述べさせてもらったんですけれども、それを経まして今日、それとそれまでもうメディアのほうで3号館、2号館ですかね、もう決められているようなことの話になっていますけれども、その状況はいつの時点でどういうふうな形で統計上、賛否はこういう形でこういうパーセンテージですから決まりましたというようなことになっているんですか。例えばそれがホームページ上で公表されているんでしょうかね。その辺をちょっとお聞きしたいんですけれども。

○会長

今の御質問、簡単にコメントいただけますでしょうか。

○企画課長

すいません。先ほどのどういう経過で決まったかという御質問かと思います。

本日、中央区の者が来ていないので、正確な日付は申し上げられないんですが、区民まちづくり会議のほうで御説明をさせていただいて、複数の案の中からお声を聞かせていただいて、その中で市役所周辺への移転を望む案というのが多数だったと伺ってございます。

それから、勤労会館についても市役所周辺への移転を希望する声が、関係団体と市民からの御意見でいただいているということで伺ってございまして、それらを踏まえまして、今日、申し上げた方向で検討を進めていきたいということで発表させていただいたという次第でございます。

○会長

そのあたりの経緯は、私もわかっておりませんが、しかるべき手続の中で決めていかれているのかなというふうに思っております。もし御不明なことがありましたら、また事務局のほうにお問い合わせいただければと思います。ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。よろしゅうございますでしょうか。どうぞ。

○委員

せっかく神戸のまちがよくなっていくのに、震災の後に領事館が本当に神戸から消えてしまったんですね。ですから、こういう市役所が新しくなり、区役所が総合していいようになる中に、何か一つのフロアをせめて各外国の領事部か何かを入れて、そこはセキュリティをきちんとすればみんな来てくれますから、それと、もうたくさんの方の要らない、パソコンと人一人がいて、あとは国の広告とかいろんなものを置いてするようないつのフロアをつくらないと、神戸は国際都市と言われて、港が開けて、飛行機も飛び、何かしてやるのに、何か田舎のまちのにぎわいのようになくなっていくより、一つきちんとしたものができないかなと思います。

それと、神戸はユニバーサルデザインのまちと一時言われて、みんなすごくいろんなところに手すりをつける、アイキャッチも見やすいようにするっていつてしている中に、そういう点が今おろそかに、忘れられたようになってきていますので。それと人種が60カ国以上、神戸って住んでるんですよ。ですから、やはりこういう国際のまちっていうのは、国際的にもうちょっと発展できるように、何かこう胸張って、神戸が外国人でも何人でもすごくユニバーサルデザインもあってできるんだと。年寄りも過ごしやすいし、神戸行って子供を産もうよという気を起こすような、やっぱりまちの計画を立てていただかないと、あっちへとられる、東京に人口をとられる、どっかにとられるという、とられる話ばかりで、何か戻ってきてもらうためのいい器が、こんなんがあるから来てくださいよっていう何かをしないとだめじゃないかなと思います。以上です。

○会長

ありがとうございます。先ほどの最後の一言が会議の結論でもあろうかと思いますが、最近『PULL』の哲学」という本が出ていまして、要するに、まさしくおっしゃられたように社会全体が引きつけるような方向に今いろんなことが変わり始めてると。かつてはプッシュというのが大きかったという著者の理屈なんですけれども、今のお話を聞いて、そのように感じたところです。

文化ホールとか図書館が都心の一番いいところに来るとするのは、とても大変いいことだと思います。先ほどお話がありましたけれども、ただ単に本を読む場所、単に何かをする空間があるというのでは、もう都心の一等地にある理由がないと思うんですね。やはりそこがまさしくプルの、人を引きつける何物かがあるということが重要なわけで、例えばですけれども、神戸の経済界と行政が公民連携して、経済界はCSRというようなことを出していただき、神戸のその都心で文化的な活動を展開していくというような構図をつくるというのも、今はもうかつてと言ったら怒られますけれども、産業都市神戸の象徴的な姿ではないかというような気がいたします。

いずれにしても、ここはどうしてもハードの議論になりがちですけれども、せっかくそこに文化的な拠点が出来るところですから、ぜひともそのようなことも市のほうでお考

えいただければというふうに思ったところであります。

そうしましたら、とりあえず今日の議題はここまでなんですけれども、皆さんよろしゅうございますでしょうか。今日は終了ということで。

そうしましたら、一応議事全て終了いたしましたので、事務局のほうにお返ししたいと思います。よろしくお願いします。

○都心三宮再整備担当部長

ありがとうございます。会長、委員の皆様、大変貴重な御意見ありがとうございました。なお、本日伺えなかった御意見につきましては、お手元に記入用紙を置いていますので、FAX、または記載のアドレスにEメールなどで届けてくだされば幸いです。

それでは、「えきまち空間」の基本計画、それから新バスターミナルの整備に向けた基本計画につきましては、皆様よりいただいた御意見を踏まえて修正を行い、議会、それから市民の皆様からの広くまた意見をお聞きしまして、年度内につくり上げていきたいというふうに思っております。

なお、次回はこの会議の開催につきましては、また決定次第お知らせさせていただきます。

3. 閉会

○都心三宮再整備担当部長

それでは最後に、住宅都市局長の岩橋より御挨拶させていただきます。

○住宅都市局長

本日はお忙しい中、長時間にわたりまして御議論ありがとうございました。たくさんのお意見、御叱咤、アイデアも含めて頂戴いたしました。

この基本計画、2つございましたけれども、両方につきましては今年度というようなことを目処に、これから市民の方の意見なんかもあわせて聞かせていただいて、策定させていただきたいと考えてございます。特に、今日いただいた御意見の中では、箱物というか、ハードだけではなくて、その使い方とかその活用というようなことも含めていただきましたし、そういった視点も入れながら、まずは、やはりスピード感を持って進めていくということが大事かと思っております。

ビジョン構想から2年が経過して、この計画は基本計画がようやくできようとしています。これをスピード感を持って進めていくためにも委員の皆様のますますの御協力、御支援をいただきたいと思います。

本日は長時間にわたりまして、ありがとうございました。今後ともよろしく申し上げます。

○都心三宮再整備担当部長

それでは、本日はこれもちまして、閉会といたします。お忙しい中、ありがとうございました。